

八女の歴史

八女の黎明期

明治～大正時代

ふるさととの文明開化

福島を中心に、八女は江戸時代から交通の要衝として発展し、伝統工芸や文化が花開きました。明治時代になると、八女にも文明開化の波が押し寄せます。明治6（1873）年には学制が公布され、八女でも郵便の取り扱いが始まりました。明治中期に、立花ではみかんの栽培が盛んになり、黒木は林産物の積み出し拠点として隆盛しました。明治18（1885）年には久留米・熊本間が開通し、八女にも国道が縦断するようになりました。明治後期には、福島で電話交換が始まり、電気も灯りました。明治36（1903）年には、羽犬塚・福島間を結ぶ馬車鉄道が開通し、大正元（1912）年には矢部・黒木間に乗合馬車が走ります。大正3（1914）年には、久留米・福島間を結ぶ電車が、同5（1916）年には黒木・山内間を結ぶ機関車の「黒木軌道」が開通。大正6（1917）年には上陽の星野川に、2連アーチの美しさで知られる寄口橋が架けられました。

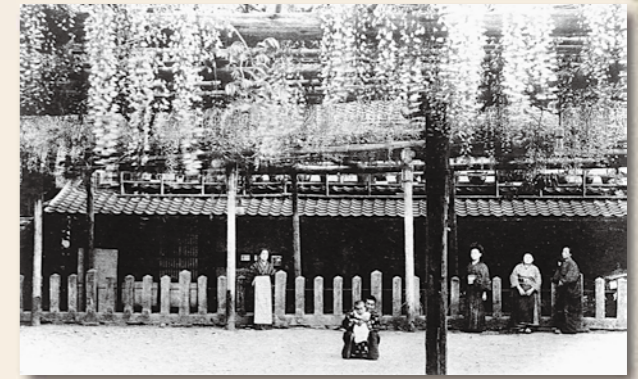
大正5（1916）年には、当時皇太子だった昭和天皇が旧八女郡で行われた陸軍特別大演習を視察に来られた際、立花の下辺春小学校の児童らがお茶を献上するために、茶摘みの奉仕作業を行いました。



寄口橋の架設風景
橋本勘五郎氏が作った皇居の奥二重橋を再現したものと伝えられる。(上陽)



たばこ元売捌所 大正初期
たばこ元売捌所黒木支店が稲荷町と呼ばれた後藤酒造の東側通りに設けられていた。(黒木)



黒木大藤
藤棚を隔てて当時の吉泉旅館が見える。(黒木)



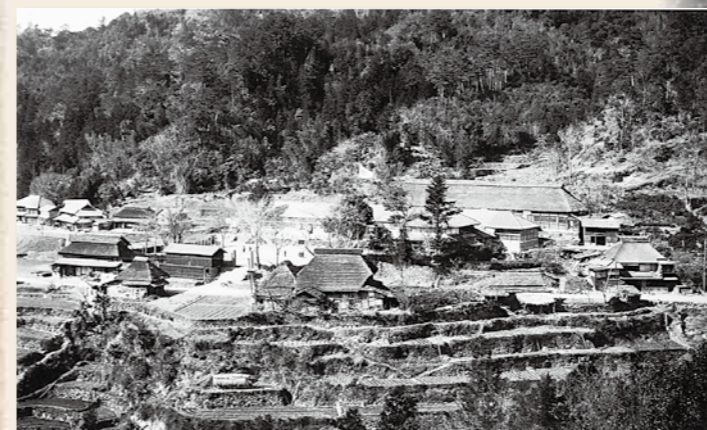
大正時代の風流の様子 (星野)



献上茶の茶摘み 大正5（1916）年
昭和天皇が八女で行われた陸軍特別大演習を視察に来られた際、お茶を献上することになり、下辺春小学校の児童が茶摘みの奉仕作業をした時の記念写真。(立花)



明治44年陸軍大演習時に展示された石人石馬 (八女)



大正時代の星野小学校 (星野)



日向神 (矢部)